

【D1】寒い季節には、室内を暖房したり、温かい服装で作業します。

《なぜ》

- 1) 冬の剪定作業や、保冷庫内での作業のように寒い環境で作業していると、手足や体が冷え、作業の能率が低下したり、動きがぎこちなくなったりします。腰痛や関節痛の経歴のある方は痛むことがあります。
- 2) 温度、湿度をコントロールするのが困難な場合は、防寒着、手袋、靴下等を活用して保温します。

《どのように》

体を冷やさないために、以下の点に配慮して対策をとります。

- ①温める。
- ②風や冷たい水から体を保護する。
- ③汗が蒸発しないようにする。
- ④自分自身の熱を保持する。

具体的には、

〔屋外〕

- 1) 防寒着を着用します。効率よく保温するために、上着は風をさえぎるコートやウインドブレーカ、内側に温かい空気を保持するセーターと汗を吸収する下着を着用します。袖や襟口は空気が逃げないように閉じます。
水を取り扱う場合は、上着に防水加工したものを着用します。
- 2) 手袋も同様に、外側には防寒のためのビニール手袋、内側に保温するため綿手（軍手）を重ねます。靴下も厚手のものをはきます。さらにカイロで温めます。
- 3) 一旦手足が冷えてしまうと、血行が悪くなり、なかなか回復しません。この場合は、ストーブやお湯で直接温めます。

- 4) 作業が始まると暑く感じたり、汗をかきます。こまめに着替えたり、体温を奪われないように汗をふき取ります。
- 5) 日なたで作業するようにします。朝夕の寒い時期をはずしたり、寒い所での作業時間を短くします。
- 6) 作業現場近くに空調付きの休憩室を用意します。
- 7) キャビン付きトラクタ等の購入を検討します。

〔屋内〕

- 1) 暖房します。
- 2) 太陽光を積極的に取り入れます。
(例：
日除けを高くする、ブラインドの角度を調節する)
- 3) 外からの冷気を遮断する。
(例：窓に断熱フィルムを貼る、カーテンをする)
- 4) 出入口から温かい空気が逃げないようにします。
(カーテンを掛ける、二重扉にする)
- 5) 作業場の温度調節ができない場合は、近くに空調のある休憩室を用意します。

《追加のヒント》

- 1) 保冷庫を頻繁に出入りする時は、体温調節がうまくいかなることがあるので、こまめに着替えたり、汗が凍らないようにふき取ります。
- 2) 寒い所でチェーンソーや電動工具を使用する時は、血行障害の危険性が特に高くなるので、手足を保温するようにします。
- 3) 石油ストーブを使用する時には、火事や酸欠に注意します。

《キーワード》

暖房、防寒、保温、体温調節

秋から冬の作業では、防寒対策をします。

例 剪定作業



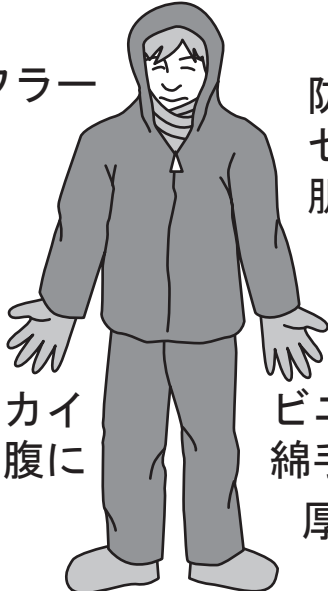
例 秋耕作業



寒い時の服装例

対策

マフラー



防寒着、セーター、肌着

効率よく保温し、かつ、動きやすい服装にします。

背中にカイロ、お腹に腹巻き

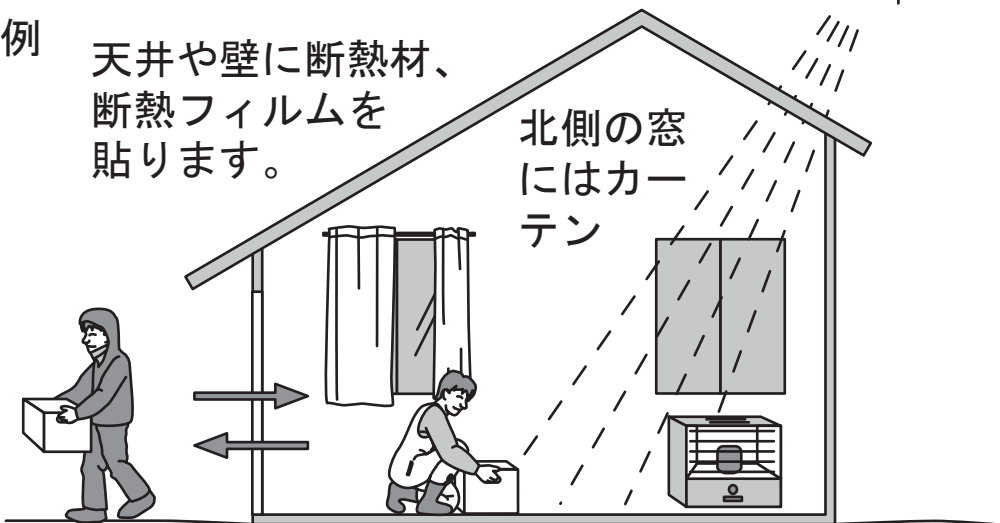
ビニール手袋、綿手厚手の靴下

作業場の対策例

温かい所と寒い所を行き来する時には、服を脱いだり、着たりして調節します。

天井や壁に断熱材、断熱フィルムを貼ります。

北側の窓にはカーテン



ストーブ

【D2】暑い季節には涼しい服装で作業したり、室内を涼しくする工夫をします。

《なぜ》

1) ハウス内作業のように高温多湿な環境、製茶作業の火炉周辺のように熱気を感じながら作業すると、体力を消耗したり、熱中症になる危険性があります。

熱放射がない場合、軽作業では温度が20~25℃程度、相対湿度30~70%程度が快適に作業できる範囲と言われています。熱放射がある場合やきつい作業ではさらに温度を低くする必要があります。

2) 作業場内の温度、湿度を作業しやすいレベルに調節するのが困難な場合は局所冷房や服装等の対策が必要です。

《どのように》

涼しく作業するために、以下の点に配慮して対策します。

- ①熱源と作業者を隔離する。
- ②風を体にあて熱を放出する。
- ③汗を蒸発させて熱を放出する。
- ④自分自身からの発熱を抑える。
- (⑤水分を適切に補給します。)

〔屋外〕

1) 温湿度計を設置して、30℃以上の暑い時期をはずして作業します。

2) なるべく木陰や室内で作業します。

(例：

外で収穫した野菜を直ぐ空調の効いた室内に搬入し調製します。これは収穫物の鮮度を保持するためにも重要です。

3) 涼しい服装をしたり、濡れタオルや保冷剤を体に巻きます。もし、野菜の洗浄のように濡れる場合は、必ずしもカッパを着るのではなく前掛け、腕カバーで最小限の範囲をカバーすると蒸れを少なく

できます。

4) 汗で失われた水分や塩分をこまめに補給します。

〔屋内〕

1) 日光を遮光します。(例：軒を長くする、日除け、ブラインドを掛ける)

2) 外気を効率よく取り込みます。(例：風向きと同じ方向の窓を開けます。)

3) 循環ファンで室内の空気を強制的に循環させます。

4) 作業舎内にクーラー等空調設備を設置します。

5) 作業舎に空調設備を設置できない場合は、扇風機やスポットクーラーで作業者に直接風を当てるようにします。

6) また、作業舎近くに空調のある休憩室を用意します。出入口はドア又はカーテン等で冷気が逃げないようにします。

7) 天井に断熱材を貼り、屋根からの熱放射を防ぎます。

8) バーナー等の熱源と作業者を離すか、断熱材で隔離します。(例：つい立てを立てる) また、加熱された空気を局所排気します。

《追加のヒント》

1) 汗が冷え、カゼをひかないように、こまめに下着を交換します。

2) 室温を低くしすぎたり、温度差のある場所をひんぱんに出入りすると体温調節がうまくいかなることがあります。

着替えたり、汗をふき取り調節します。

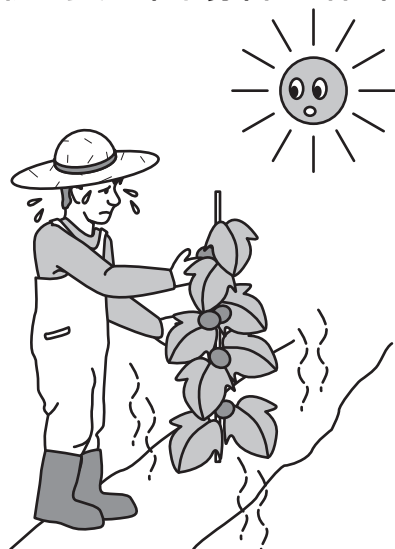
3) 歳をとると、水分不足に対する感覚が鈍ることがあります。こまめに水分をとります。

《キーワード》

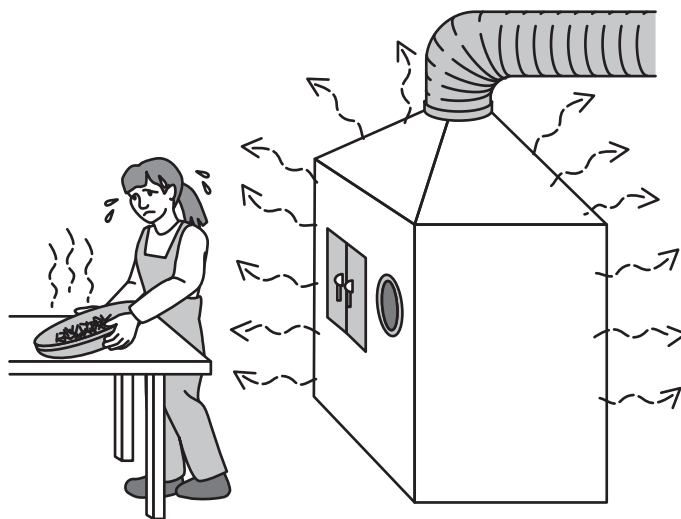
高温多湿、断熱、空調設備、水分補給

暑い季節や熱放射がある場所では涼しくなる対策をします。

例 夏の圃場管理作業

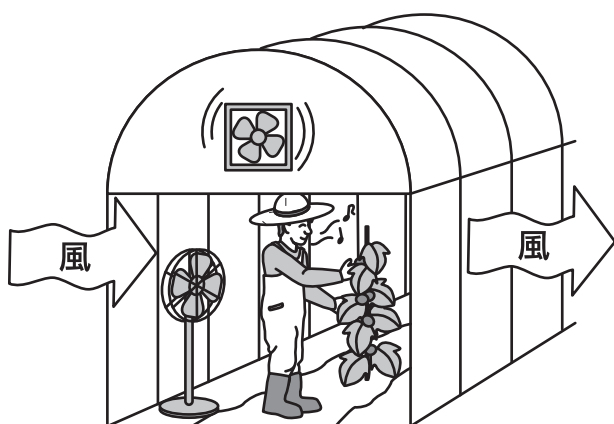


例 製茶作業



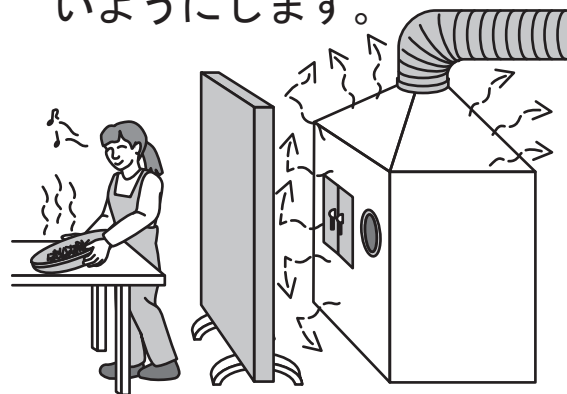
改善

窓を開け風を流します。

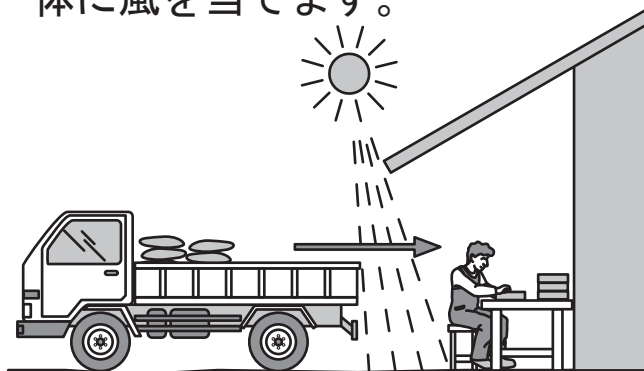


ファンで空気を循環させたり、体に風を当てます。

断熱材のつい立てを置き、作業者に熱気が当たらないようにします。



極力日陰か室内で作業します。



適度に水分を補給します。



【D3】効率よく快適に作業できるように、作業場内を明るくしたり照明の配置を工夫します。

《なぜ》

1) 効率よく作業するには、作業場内を十分な明るさに保つ必要があります。

特に視力が低い方は早く疲労する傾向があります。

また、果実の選別は鮮度や色を判別するために部屋の明るさ、照明、壁の色も能率、精度に大きく影響します。

2) 照明のまぶしさについては、①光源（電灯、太陽光）が直接目に入る場合、②光沢のある作業台等に反射する場合があります。このようなことがあると、対象物が見にくく、不快感、作業効率の低下する上に、目が早く疲労します。

《どのように》

1) 太陽光を採り入れます。（例：窓をきれいにする、窓の近くで作業する、窓を大きくする、高い位置に窓を取り付ける、ブラインドを設置する）

2) 太陽光を利用しにくい時は、電灯で明るさを調節します。

全体照明は部屋全体に行き渡るようにします。（一方向のみではカゲができ、作業がしづらくなります。）

3) 高周波の蛍光灯や白熱灯等ちらつきの少ない照明を使用します。

4) 視力によって適切な明るさが異なります。各自が作業しやすい明るさになるよう電気スタンド等の手元照明で調整します。

5) 壁と天井の色を工夫します。（例：明るい色を塗装する。ただし、反射光でまぶしくならないようにつや消しのものを塗装する。）

6) 照明のまぶしさは2種類あります。

①光源（電灯、太陽光）が直接目に入る

②光沢のある作業台等に反射する

前者では、光源が直接見えないよう窓にカーテンを掛ける、電灯の高さを調整する、電灯フードを取付ける、つい立てを立てる等の対策をとります。

後者では、光沢のある面の角度を変える、覆いを掛ける、つい立てを立てる等対策をとります。

《追加のヒント》

1) 太陽光が強すぎる場合は遮光します。

（例：カーテン、ブラインドを調節する）

2) 照明のちりやほこりは定期的に清掃し、明るさを維持します。

3) 時々、視力検査を行い通常より著しく低下している場合は、休憩するか別の作業をするようにします。

例：下の小さな文字が読めない場合は休憩します。

視力検査見えますか？

4) 目の疲労を少なくするためには、対象物の背景も重要です。作業台の色を工夫したり、作業に関係ないものを目の前から取り除きます。

5) 生産物の選別作業では、鮮度や品質の判定のために照明の色も重要です。太陽の下と同じように見える色のものを使用します。

6) 通路にも照明を設置します。その時は、照明スイッチを出入口付近かセンサ付きライトを設置します。

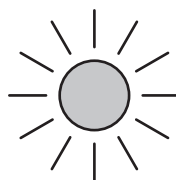
7) 照明のスイッチの位置が分かりやすいように蓄光式シール等を貼ります。

8) 屋外の夜間作業は安全に注意します。

《キーワード》

全体・手元照明、天井、壁の色、まぶしさ

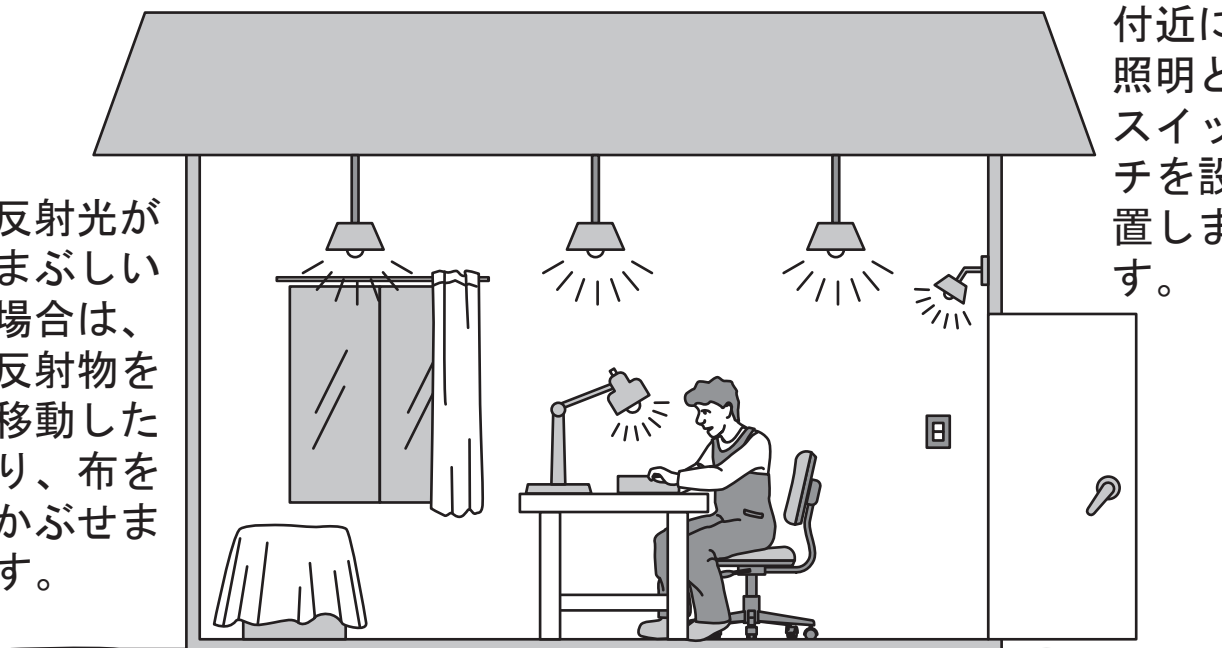
昼間は太陽光を利用できるように窓の近くで作業します。太陽光が直接目に入る場合は、カーテンを引きます。



全体照明は広く照らせるようになるべく高く設置します。

出入口付近に照明とスイッチを設置します。

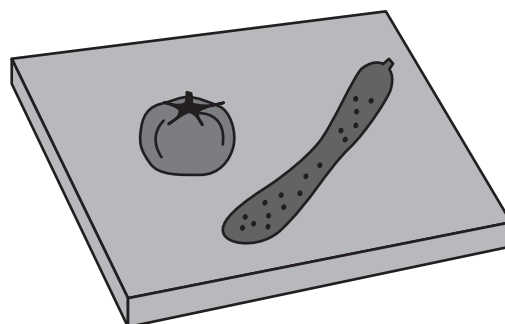
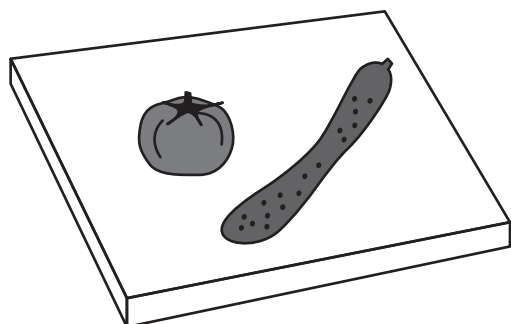
反射光がまぶしい場合は、反射物を移動したり、布をかぶせます。



室内が明るくなるように、天井や壁は明るい色を塗ったり壁紙を貼ります。

手元のカゲをなくし、明るさを補うためにスタンドを使用します。

どちらが見やすいですか？



作業台の背景色を工夫すると、見やすく目の疲れを少なくできます。

【D4】サイロ、貯蔵室内の酸素欠乏及び有毒ガス中毒にならないように換気します。

《なぜ》

1) 農業分野でも酸素欠乏や有害ガス中毒による死亡者が全国で毎年1～4人程度にのぼります。

事故の原因として、①酸素欠乏に気付かずに作業した、②換気をしていなかった、又は不十分だった、③酸素濃度を確認しないで酸素欠乏の場所へ入った、④作業者に酸素欠乏事故防止の知識が欠けていた、⑤救助者が空気呼吸器を着用しないで救助しようとした、といったものがあります。

2) 酸素欠乏、ガス中毒事故の起こりやすい場所として、飼料用サイロ、糞尿処理タンク、半乾粉貯蔵の穀物層、揚水用地下井戸、機械整備中の格納庫、CO₂施肥中のハウスがあります。

農業分野の酸素欠乏、有毒ガス中毒事故の原因であるCO₂、CO、NO、NO₂は、無色、無臭で空気より重く室内に溜まりやすい性質を持っています

《どのように》

以下の点に配慮して安全に作業します。

- ①よく換気する。
- ②有毒ガスの有無を確認してから入室する。
- ③危険性を家族にも知らせる。

具体的には、

- 1) 換気窓や換気装置を備え、換気がすんでから入室します。また、できるだけ換気しながら作業します。
- 2) 酸素欠乏のおそれのある部屋へ入る前に、酸素計等で酸素濃度を測定し、安全なことを確認します。

(酸素欠乏のおそれのある場所には、同時に可燃性ガスも含まれることがあり、ろうそ

くなどの裸火を入れると火災を引き起こす危険性があります。)

- 3) 複数人数で作業するようにします。
- 4) 被害者を救助する場合は落ち着いて十分換気し、救出します。次ぎに応急措置として人工呼吸をします。もし、胃の内容物を嘔吐している時は口に指を入れ、はかせてから行います。
- 5) 事故のおそれのある場所に出入りする時は、家族にその旨を伝え、時折声を掛けに来てもらいます。ただし、入口には「有毒ガス中毒注意」「立入禁止」等標示し、子供や部外者が不用意に立ち入らないようにします。

注 意

通常の農業用防毒マスクの吸収缶は、酸素欠乏場所では効果がありません。この場合、空気呼吸器を使用します。

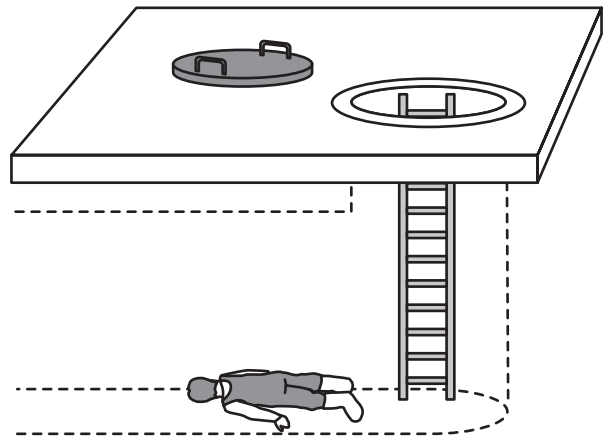
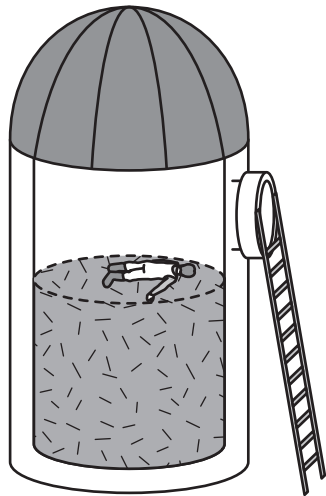
《追加のヒント》

- 1) 救急救命処置の講習を消防署に依頼します。
- 2) 主なマスクメーカーの連絡先：
 - ・ミドリ安全株式会社 TEL03-3442-8291
 - ・株式会社重松製作所 TEL03-3255-0255
 - ・クレトイシ株式会社 TEL03-3432-4115(平成11年6月現在)

《キーワード》

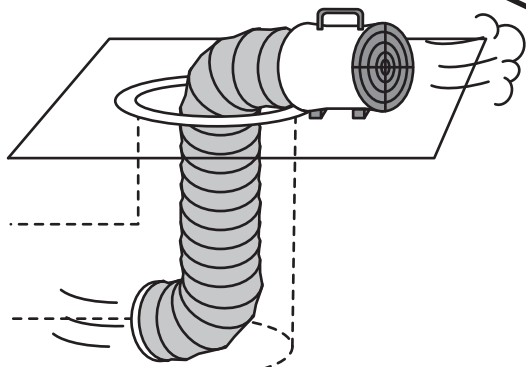
酸素欠乏、ガス中毒、換気、救命処置

酸欠、有毒ガス中毒は重大な事故になることが多く、注意が必要です。



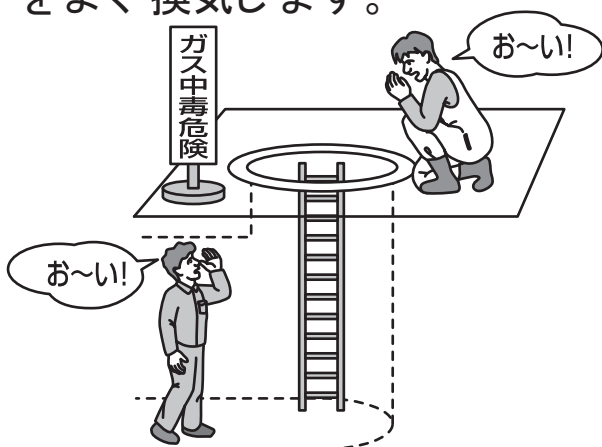
酸欠、有毒ガス中毒の危険性の高い場所は、サイロ、堆肥タンク、地下倉庫、機械整備中の格納庫、CO₂施用中のハウス等です。

対策



事前に排気ファンでよく換気します。有毒ガスは空気より重いことが多いため、底の方をよく換気します。

酸素計等で酸素濃度を測定し、安全なことを確認します。



複数人数で作業します。また、入口に入室時間、危険等を標示します。



救命処置法を消防署に依頼して、講習を受けます。

【D5】作業者がやけどしないように高温部分（ヒータ、バーナー等）を防護します。

《なぜ》

- 1) エンジン、マフラー等高温部に触れるとやけどをします。しかし、一見高温部が分からず、誤って接触することがあります。
- 2) 一般的には、130℃以上では瞬時にやけど、それ以下の温度でも長時間接触していると低温やけどを負う可能性があります。特に低温やけどは、気付かないうちに深くまで負うことがあり、注意が必要です。

《どのように》

- 1) 高温部の近くで作業しなくてよいように、機械等の配置を見なおします。同時に、高温部と作業者を安全柵等で隔離します。
- 2) また、注意標識を立てます。
- 3) 手袋や作業着を着用します。
(例：革手袋と綿手を重ねて使用。)
- 4) 体温より暖かいものに長時間接しないようにします。
- 5) やけどの応急処置できるように患部を冷やす水や薬を準備しておきます。

《追加のヒント》

- 1) ヒータやバーナーの放射熱によって熱中症の危険性がある場合も、作業者と熱源を離したり、断熱材のつい立てで隔離します。この時、火事にならないよう注意します。
- 2) 消火器を備え、消火訓練を消防署に依頼します。
- 3) エンジンは、排気ガス中毒にならないように換気します。
- 4) もし、可能であれば、サーモラベル（温度で色が変わるシール）を貼り、対象物の温度を分かりやすくします。

《キーワード》

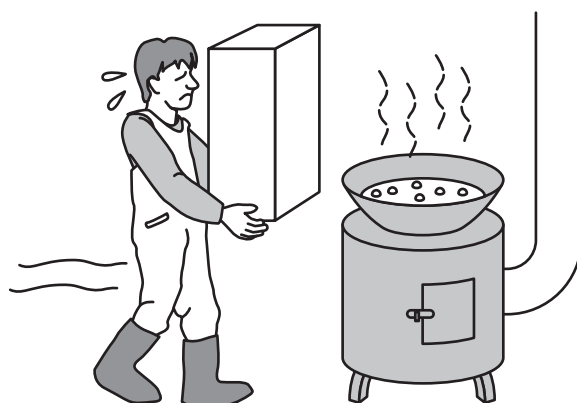
やけど防止、高温部のカバー、標識

やけどしないように、高温部を防護します。
 (熱いものは見えないのでうっかり触れて
 しまうことがあります。)

例 機械のトラブル時

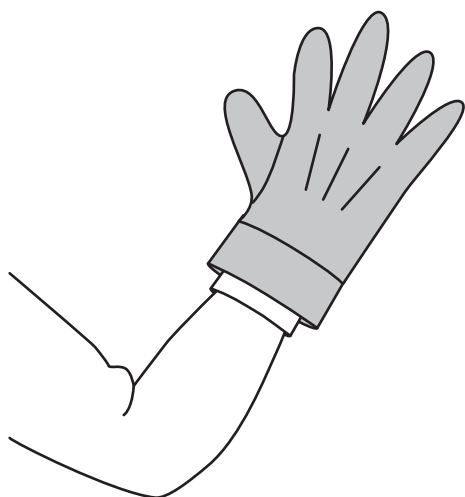


例 冬の室内作業

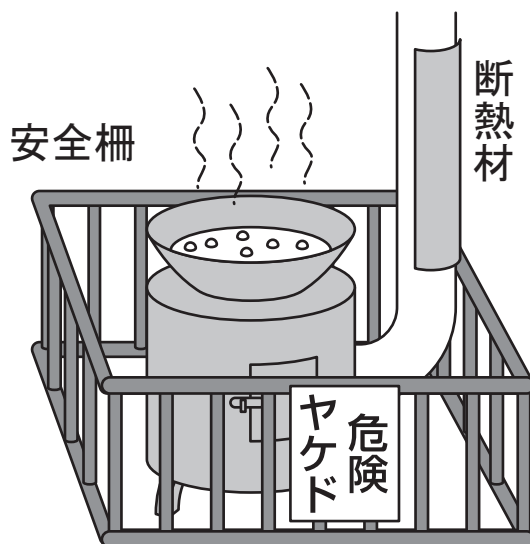


対策

熱い物を取り扱う場合は、
 綿手と革手袋を重ねて使
 用します。



手首のやけどを防ぐために
 その長い手袋や腕カバー
 を使用します。



注意標識

【D6】粉塵の飛散が少なくなるように発生カ所から除塵するか、発生カ所の周囲を囲います。

《なぜ》

- 1) 空気中の有害物質を鼻や口から吸いこんだり、目に入ったり、体に附着すると頭痛、めまい、目やのどの炎症を起こす可能性があります。急に症状がなくても長年体に蓄積し病気の原因になります。
- 2) 農業分野では、種籾のカルパーコーティング、粉剤散布、稲・大豆等の収穫及び乾燥・調製、牧草収穫や飼料の運搬、細断、たたみ表の機織り等の作業で粉塵発生が問題になることがあります。

《どのように》

〔屋内〕

- 1) 粉塵が換気できる範囲が非常に狭い場合は、発生源をカーテン等で囲いこみます。
- 2) 囲い込む方式が困難ならば、ダクト付き吸引ファンで局所的に吸引します。
この時、吸引した粉塵が再度飛散しないように布袋等のフィルタで捕集します。さらに換気効率を上げるため、発生源の周りをカーテン等で囲みます。なお、使用しない時にはダクトの吸入口にフタをします。
- 3) 防じんマスクを装着します。なお、ガーゼマスクは顔との隙間が大きい上に、ほとんど捕集効果がありません。また、揮発性ガスが含まれる場合は、化学物質に対応した防毒マスクを使用します。

〔室外〕

- 1) 風上に立って作業します。ただし、周囲の環境を汚す可能性がある場合は、風のない時期に作業します。
- 2) 防じんカバーやキャビン付きの機械を使用します。ただし、農薬はエアコンのフィルタで捕集できないことがあります。
- 3) 防じんマスクを装着します。なお、ガーゼマスクは顔との隙間が大きい上に、ほとんど捕集効果がありません。また、揮発性ガスが含まれる場合は、化学物質に対応した防毒マスクを使用します。

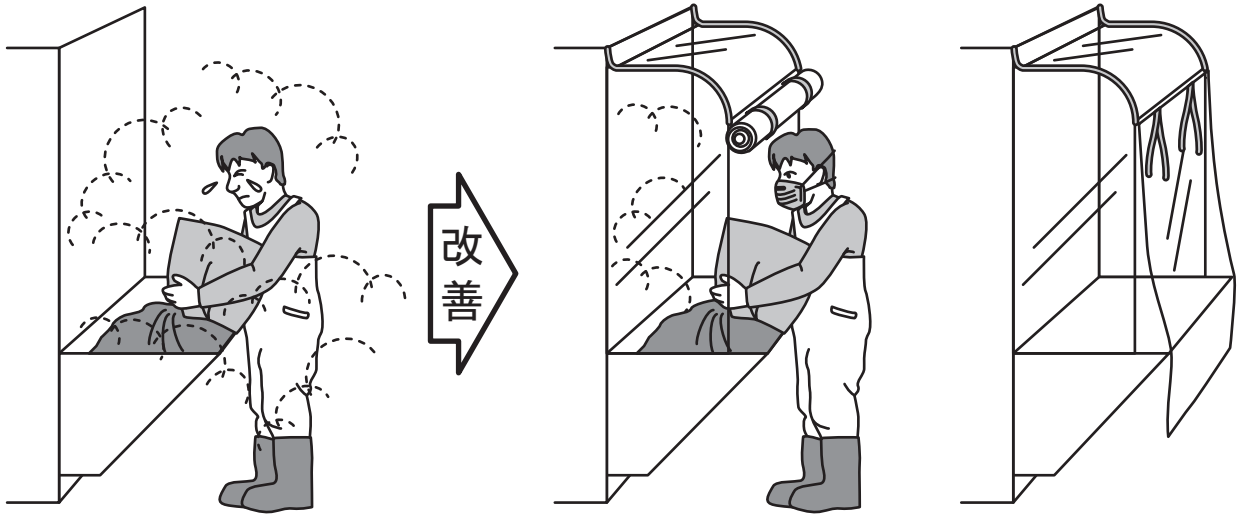
《追加のヒント》

- 1) ガソリンのように引火性のガスや、小麦粉のように燃えやすいものが含まれている場合は、吸引ファンは防爆型を使用します。
- 2) 主なマスクメーカーの連絡先：
 - ・ 興研株式会社 TEL 03-5276-1911
 - ・ 株式会社重松製作所 TEL 03-3255-0255
 - ・ リー・エム・スカー株式会社 TEL 0120-853-355
 - ・ クレトイシ株式会社 TEL 03-3432-4115(平成11年6月現在)

《キーワード》

粉塵、発生源囲い込み、捕集、マスク

粉塵の発生、飛散が少なくなるようにします。



ホッパにモミ等を投入する時に粉塵が舞い上がります。

ホッパの回りに囲いを取付け、飛散を少なくします。



防じんマスク

囲うのが難しい場合は、排気ファンで吸引します。（排気口には、目の細かい網を付け、集塵します。）同時に、防じんマスク、メガネを使用します。

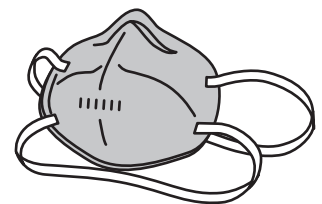
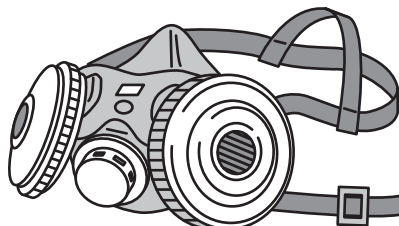
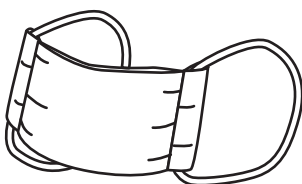
排気ファン



ガーゼマスク



防じんマスク



ガーゼマスクはほとんど防じん効果がありません。防じんマスクを使用しましょう。

【D7】騒音や振動の大きい機械から離れて作業するか、機械の周囲を囲みます。

《なぜ》

- 1) 騒音は、①難聴を起こさせる。②消声器、循環器、神経系等に障害を及ぼす。③音声や音楽を聴く妨げになる。④心理的な不快感を起こさせる。等の影響があるとされています。また、騒音が大きいと連絡や警報が聞こえず、事故の危険性が高くなります。通常の声で話ができなければ対策が必要です。
- 2) 振動は大きく分けて、全身振動と手腕系振動があります。前者は、トラクタを運転している時などに全身に感じるもので大きいと①不快になる、②運転が困難になる、③内蔵や背骨を損傷することがあります。後者は、刈払機を使用している時など手に感じるもので、しびれたり、血行障害を引き起こすことがあります。

《どのように》

〔騒音対策〕

- 1) 静かな機械を購入します。選定する前に、型式検査表で騒音データを調べたり（問合せ先：生研機構 048-654-7000）、空回しして騒音をチェックします。
- 2) うるさい機械から離れて作業するか、機械を別室へ移動します。（例：ネギ皮むき機のコンプレッサを外へ移動）
- 3) 騒音・振動が低くなる回転付近で機械を使用します。（通常は定格回転付近が低くなるように設計されています。それ以上回転を上げてても能率が上がりません。刈刃を研いだりの方が先決です。）
- 4) 機械をこまめに整備し、ベアリング等の摩擦音を減らしたり、緩んでいるネジを締めます。刈刃は研ぎます。

5) 定置式の機械全体を吸音材製のつい立てで囲い込みます。ただし、火事の危険性がないか確認します。

6) 天井や壁へ吸音材を貼り付け、音の反射を少なくします。

〔振動対策〕

- 1) 使用者が振動を低減するのは非常に困難です。最近では、振動の少ない機械が開発されつつあり、それらの機械を購入するのが一番です。（例：サスペンションシート付きトラクタ、防振ハンドル付きチェーンソー）。購入前に一度空回しして振動の大小を確認します。
- 2) 振動が低くなる機械回転で作業します。（騒音と同様に定格回転付近で振動が低くなるように設計されています。）
- 3) 機械をこまめに整備し、磨耗した部品を交換します。
- 4) 定置式の機械は、防振材の上に設置します。（ただし、防振材は機械の重量等により適切な固さを選択する必要があります。防振材メーカーや専門家にご相談ください。）

《追加のヒント》

- 1) 対策が困難な場合には、耳栓、イヤマフを着用します。同時に連絡の合図を決め、連絡が取れるようにします。
- 2) 休憩、作業交替して、騒音・振動に連続してさらされるのを避けます。また、血行障害にならないよう、手を冷やさないようにします。
- 3) 主な防振・防音材メーカーの連絡先：
 - ・(株)ブリヂストン TEL 03-5202-6853
 - ・大阪化工(株) TEL 06-6876-2334（平成11年11月現在）

《キーワード》

騒音、振動の小さな機械、囲い込み、機械整備、保護具使用

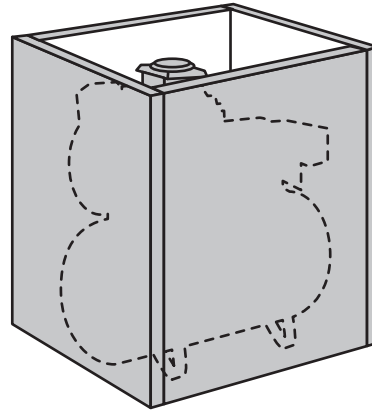
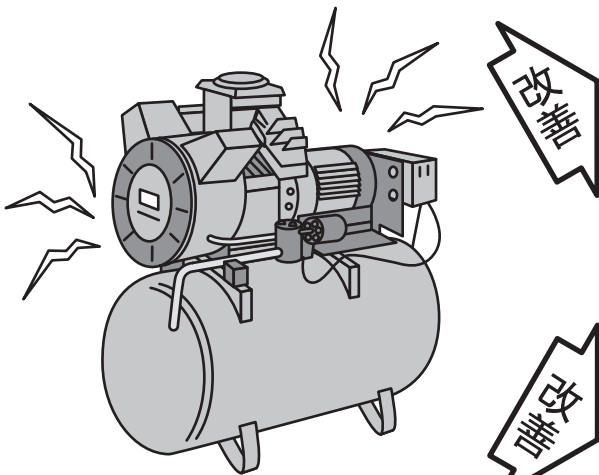
機械の騒音・振動を低く抑え快適に作業します。

例 刈払機

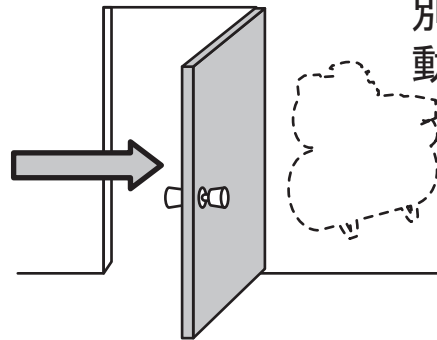


- 騒音・振動の小さくなるエンジン回転で作業します。
- 定期的に整備して、ベアリング、チェーン等の摩擦音を減らします。
- 耳栓、イヤマフや防振手袋を使用します。

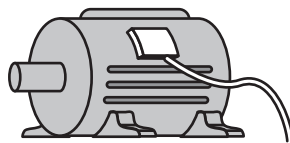
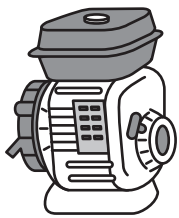
例 ネギ皮むき機のコンプレッサー



防音材で囲います。天井、壁に吸音材を貼り、反響を少なくします。

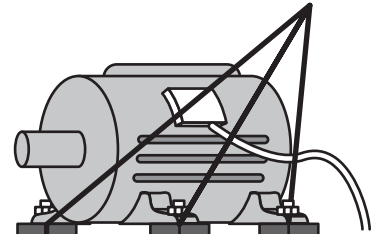


別室へ移動します。



動力をエンジンから電動モータに変更できるか検討します。

防振ゴム



定置機械の足へ防振ゴムを取付け、振動の伝播を減らします。

【D8】騒音の大きい機械を操作する時には耳栓やイヤマフを着用します。

《なぜ》

- 1) 依然として、騒音の大きい農業機械が多いのが現状です。最低限の自衛策として、防音保護具を使用します。保護具は機械より安価で永く使用でき経済的です。ただし、間違った使用方法や個人に合わない保護具では効果はありません。最近の防音保護具（耳栓、イヤマフ）は種類も多く、各自に合わせて選択できます。

《どのように》

- 1) 作業者にあった保護具を用意します。消耗品も用意します。選択のポイントは、
 - ①どれくらい静かになるか。
 - ②また、共同作業者とコミュニケーションをとる必要があるか。
 - ③耳栓は耳の穴の形に合うか。イヤマフは耳殻が変形しないか。
 - ④頭に圧迫感があり、こめかみの辺りが痛くならないか。逆に緩くすわりが悪くないか。
 - ⑤イヤマフと同時にヘルメット、マスク等を着用するか。
 - ⑥汚れにくい。また清掃できるか。
 - ⑦紛失しない工夫がなされているか。販売店によっては、在庫がなかったり、納得いく説明が得られないこともあります。保護具の製造メーカーにも問い合わせることをお勧めします。
- 2) 保護具の装着・使用方法、手入れ方法を取扱説明書で確認します。
- 3) 紛失しないように保管場所を決めます。

《追加のヒント》

選択のポイントを解説すると、

- ①、②：よく遮音するものとやや緩いものがあります。遮音しすぎて孤独感を感じたり、他の人の指示が聞こえない場合は、遮音がやや緩いものを選択します。
- ③：耳栓が各自の耳の穴形に合わないと、遮音効果がなく、装着できない場合もあります。イヤマフでは耳に接するパッドの形状や堅さが不相当だと、遮音が不十分で、耳の周りが痛むこともあります。また、内側の穴の空間が狭いと、装着した時に耳殻（いわゆる頭の両側に出ている部分）が変形し、痛みを感じる場合があります。購入前に装着して確認します。
- ④：イヤマフは、バンドの長さや押しつけ力を調節できるものを選びます。長時間使用している間になじんでくるので、最初は極端に締め付け感がなければ良い。また、重量は左右に偏りがなく、なるべく軽いものを選びます。
- ⑤：イヤマフのバンドは、頭の上、後にあたり、ヘルメット一体形もあります。
- ⑥：汚れている手で取り扱っていると耳栓やイヤマフも汚れ、耳がかゆくなったり病気の元になります。すぐ清掃します。現在は使い捨て式や耳に接する部分の使い捨てペーパーが用意されているものもあります。
- ⑦：耳栓は1組をヒモでつないであるものは紛失しにくいのでお勧めします。

主なメーカーの連絡先：

- ・ノーベル株式会社 TEL03-3432-5341
- ・興研株式会社 TEL03-5276-1911
- ・株式会社重松製作所 TEL03-3255-0255
- ・スリーエムヘルスケア株式会社
TEL0120-853-355
- ・ミドリ安全株式会社 TEL03-3442-8291
(平成11年6月現在)

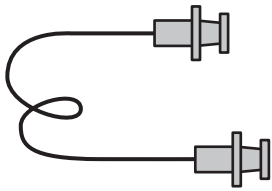
《キーワード》

耳栓、イヤマフ

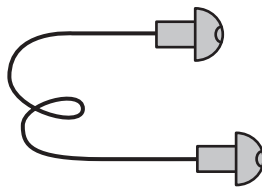
騒音の大きい機械を操作する時に耳栓、イヤマフ（耳覆い）を使用します。

各種耳栓

①

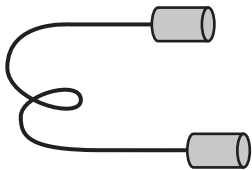


②

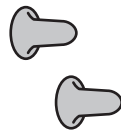


①、②は従来のプラスチック製耳栓

④

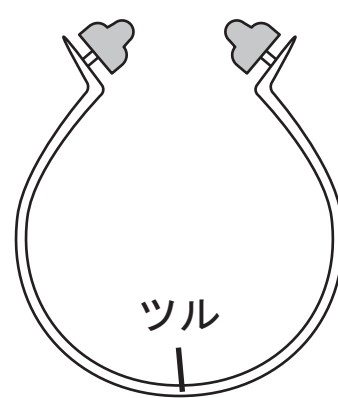


⑤



④、⑤はウレタンフォーム製でどんな形の耳にも合います。

③



③はプラスチック製のツルをもって着脱できるので、衛生的に使用できます。

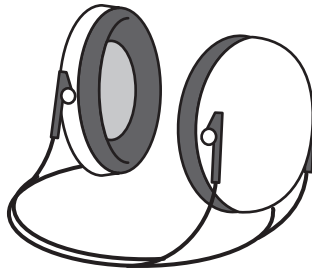
各種イヤマフ

①



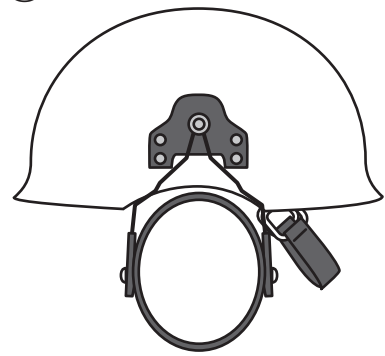
通常の間

②



バンドが頭のある形。帽子をかぶる時に便利。

③



ヘルメット一体形



パッド
パッドの形や固さが合わないと、こめかみの周囲が痛むことがあります。

イヤマフ内側の耳が入る空間が充分にあり、装着した時に、耳が変形しない物を選びます。